

会 議 要 旨

会議名	令和6年度 第2回館山市下水道事業審議会
開催日	令和6年7月10日(水)
開催場所	鏡ヶ浦クリーンセンター 2階会議室 午前10時～11時40分
出席者	委員(14名) ※敬称略、委員名簿順 松坂 誠一 米澤 徹 小林 正幸 伏原 由美 八巻 侃 小滝 仁 滝口 恵子 高橋 和子 角田 吉夫 鈴木 久雄 前田 尚志 伏居 丈夫 長谷川 秀徳 鈴木 正一 講師(1名) ※敬称略 遠藤 誠作(総務省・経営財務マネジメント強化事業アドバイザー) 事務局(9名) 館山市長、建設環境部長 都市計画課長 下水道室長 下水道管理係長、下水道施設整備係長、他下水道室職員3名
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0名
会議概要・結果等	1.市長挨拶 2.遠藤アドバイザーの講義 【講義内容】 ・館山市下水道事業の財政状況について ・使用料の考え方について 【質疑なし】 3.下水道料金の改定について 【事務局からの説明】 ・館山市の使用料収入に関する説明 ・平均改定率28%の事務局案の提示と根拠説明 【質疑・意見】 ①県内他市町村の上水道との料金バランスはどうか。 事務局) 水道料金を100%とすると(下水道料金の県内平均は)大体80%で、館山は65%なので少ないという現状である。 令和6年10月には三芳水道企業団の値上げもあり、バランスを考えると引き上げることは可能である。

②水洗化率 100%に向けての動きはどうなっているのか。

事務局) 水洗化率は接続人数を区域内人数で割ることで算出される。しかし、収入に大きく影響するのは区域内人数にカウントされないが、多くの水量を使用する事業者であるため、こちらを優先して推奨を進めていく考えである。

③昨今は値上げの世の中であるのでこのタイミングで思い切って値上げをしても良いのではないか。

事務局) 更に改定率の上下について議論があれば、それに基づいて算定を調整する考えである。

④やはり、浄化槽世帯との費用の格差は大きい。市民にもそこをもう少し簡単に説明すればスムーズに納得できると思うがどうか。

事務局) おっしゃる通りである。(浄化槽業者の)維持管理費値上げのお話も耳にしている。上水道とのバランスもあるがこちらも考慮すべきであり、説明を進めていきたい。

⑤市人口や使用料収入は 30%程度減少するのに対し、工事費は増加に対応することができない。現状でも大きく足りていない状況にこれ以上の拍車がかかる状態であり、本当に平均改定率 28%で問題ないのか。今後数回に分けて、細かく使用料の値上げを行えば住民の負担感が大きくなるように感じる。段階的に上げるよりは一度の負担は増えるとはいえ、ある程度大きく上げた方が良いのではないか。

事務局) こちらとしても 28%の値上げは最低ラインであると考えている。本来であれば、説明でもあったが約 278%の値上げが必要なところではある。

今後例えば(平均改定率) 50%に設定する場合には、当審議会に料金プランや広報の進め方の提示を再度行う。

遠藤講師) 料金体系については見直す必要がある。現在、使用している基本水量制は簡易水道の発足した昭和 30 年代の制度である。

ただし、一度に大幅に値上げすることは市民に多大な負担が生じることとなり、信頼関係を損なう恐れがある。徐々に段階を分けて値上げをすることで、いかに下水道事業の経営が厳しいかを理解してもらう方が好ましいと考える。また、段階的にすることで定期的に精査することも可能である。

⑥今の遠藤講師の話を聞いて 28%程度が妥当ではないかと考える。

人口減による収入減は分かり切っている事であり、値上げは避けられない。かと言って、水道料金とのバランスも考えなければならない。(維持管理における)電気代が料金に含まれていない等の理解を得やすいと思われる説明を軸に進めてほしい。

	5.その他 追加の報告事項「館山市公共下水道事業計画及び事業認可の変更に係る手続き」について 【事務局からの説明】 ・進捗について説明 【質疑・意見】 ⑦よく施設の長寿命化計画というものが言われるが、館山市ではそういったものは策定しているのか。 事務局) 館山市でもストックマネジメント計画(＝長寿命化計画)は策定している。これに沿うような形で今回報告の事業計画も5年の延伸を手續している。 ⑧ストックマネジメント計画は鏡ヶ浦クリーンセンターだけでなく管路等も含めて策定されているのか。 事務局) 鏡ヶ浦クリーンセンターは策定している。管路については策定予定であるが、敷設して30年未満であるため、現在は未策定である。
--	---